

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	疾患別動作分析学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	昼間部2年		学期及び曜時限	後期	教室名	902教室
担当教員	疋田 佳希					
実務経験とその関連資格	理学療法士として6年間、急性期・回復期病院に勤務。その後、個人事業としてarukuck lab設立し、トップアスリートのリハビリ、足底板作成、歩行動作改善に従事される。現在は整形外科クリニックに勤務し運動器理学療法、スポーツ理学療法に携わっている。また、動作のバイオメカニクスに関する研究もを行い修士号を取得。					
《授業科目における学習内容》						
(目標①)疾患動作の知識修得、(目標②)動作分析にもとづいた評価項目の選択ができる、(目標③)動作分析にもとづいた問題点を文書化できる						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> ●石井慎一郎:動作分析-臨床活用講座-バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践(MEDICAL VIEW) ●山本澄子:基礎バイオメカニクス-第2版-(医歯薬出版株式会社) 						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
先に学んだ「正常動作」の知識を生かし、疾患により生じる「異常動作」を学び/比較することで、臨床実習に沿った能力を養います。疾患学の予習、正常動作(バイオメカニクスを含む)の復習は必ず行ってください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	疾患動作分析学の概要を知る		教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習	
	各コマにおける授業予定	疾患動作分析学 総論				
第2回	授業を通じての到達目標	中枢性疾患の動作分析を経験する		教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習	
	各コマにおける授業予定	中枢性疾患の動作分析①				
第3回	授業を通じての到達目標	中枢性疾患の動作分析を経験する		教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習	
	各コマにおける授業予定	中枢性疾患の動作分析②				
第4回	授業を通じての到達目標	中枢性疾患の動作分析を経験する		教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習	
	各コマにおける授業予定	中枢性疾患の動作分析③				
第5回	授業を通じての到達目標	中枢性疾患の動作分析を経験する		教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習	
	各コマにおける授業予定	中枢性疾患の動作分析④				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	整形疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習
	各コマにおける授業予定	整形疾患の動作分析①		
第7回	授業を通じての到達目標	整形疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習
	各コマにおける授業予定	整形疾患の動作分析②		
第8回	授業を通じての到達目標	整形疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習
	各コマにおける授業予定	整形疾患の動作分析③		
第9回	授業を通じての到達目標	整形疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習
	各コマにおける授業予定	整形疾患の動作分析④		
第10回	授業を通じての到達目標	症例の動作分析を討議できる	教科書	復習/分析のポイント予習
	各コマにおける授業予定	グループワーク/ディスカッション①		
第11回	授業を通じての到達目標	症例の動作分析を討議できる	教科書	分析のポイント予習/復習
	各コマにおける授業予定	グループワーク/ディスカッション②		
第12回	授業を通じての到達目標	症例の動作分析を討議できる	教科書	分析のポイント予習/復習
	各コマにおける授業予定	グループワーク/ディスカッション③		
第13回	授業を通じての到達目標	症例の動作分析を討議できる	教科書	分析のポイント予習/復習
	各コマにおける授業予定	グループワーク/ディスカッション④		
第14回	授業を通じての到達目標	動作分析の概要を理解できる	教科書	分析のポイント予習/復習
	各コマにおける授業予定	まとめ①		
第15回	授業を通じての到達目標	動作分析の概要を理解できる	教科書	
	各コマにおける授業予定	まとめ②		